

高齢化の進展を考慮した生活交通の有り方の研究

広島工業大学大学院
広島工業大学

学生会員 ○中村 和成
正会員 大東 延幸

1. 研究背景

広島市は平坦地の占める割合が少なく、高度成長期以降多くの新しい住宅地が斜面に作られた。本研究で対象とした、広島市佐伯区は図1に示すようにその西

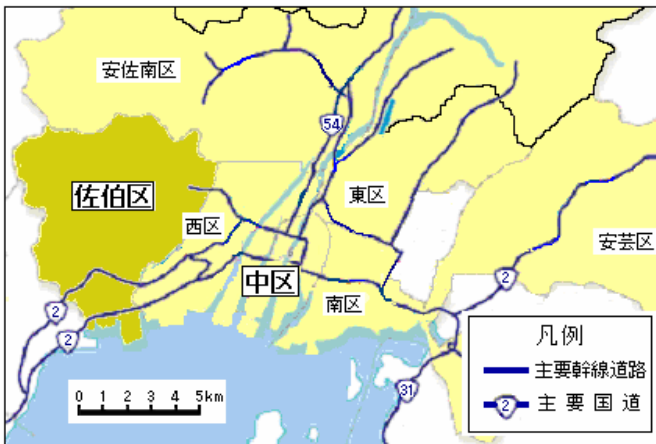


図1 広島市における佐伯区の位置

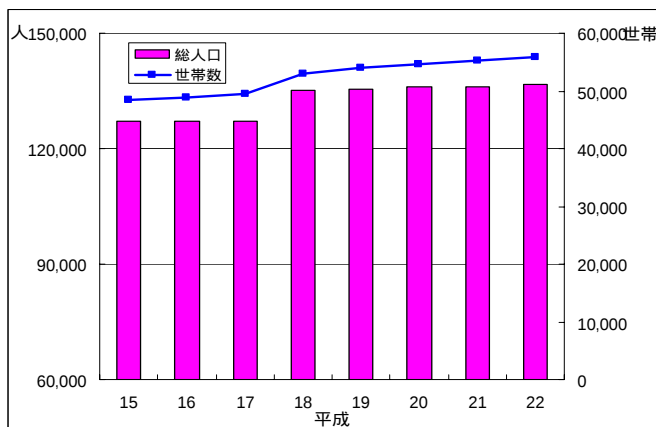


図2 佐伯区の人口・世帯数の推移

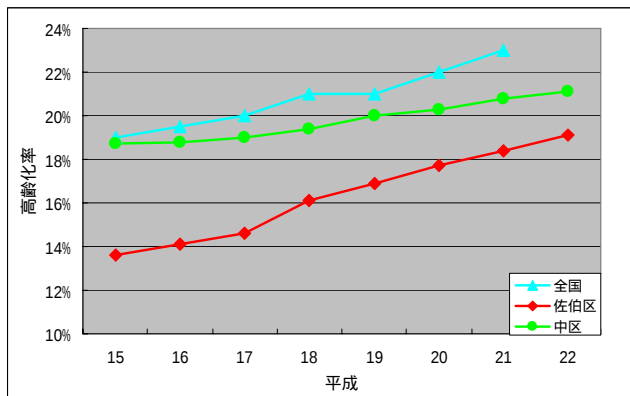


図3 各地の高齢化率の推移

部に位置し、前述のような住宅地が数多く立地する。

広島市佐伯区の人口と世帯数は、図2に示すように、過去7年間で見ると人口は、横ばいや減少であるが、世帯数は微増であり、区の人口として12万人を超えている。図3に示すように高齢化率は、広島市の中心部である中区や全国平均と比べても、高齢化率は低い。この原因として考えられるのが、前述した新しい住宅地が多いことである。佐伯区の場合、このような住宅地に約5万人が住んでおり、いずれの住宅地も分譲開始時に住宅地を購入した特定の年齢層が多い場合が多い可能性が高い。

これらの住宅地の日常的な交通はマイカーに依存している割合が高いが、特定の年齢層が多いまま高齢化が進展した場合、今後ともこのような交通のあり方が続けられるとは限らず、買い物や通院などに不便が生じ、商業施設の縮小などによる地域の衰退が生じる可能性がある。これらの住宅地において現状ではマイカーに変わる公共交通網はほとんど存在しないが、地域の活性化と維持のためにも何らかの形で交通サービスを導入する必要があると考え、まずはバスサービスを念頭に置き、現状の公共交通空白地帯に交通サービス計画を行うことを検討したい。

2. 対象地域の住宅地の高齢化の現状と将来

佐伯区の既存市街地を含めた、主な住宅地の2010

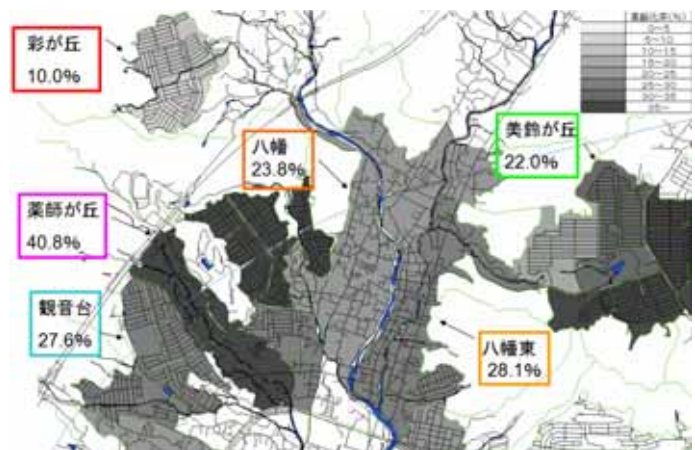


図4 佐伯区の住宅地の高齢化率

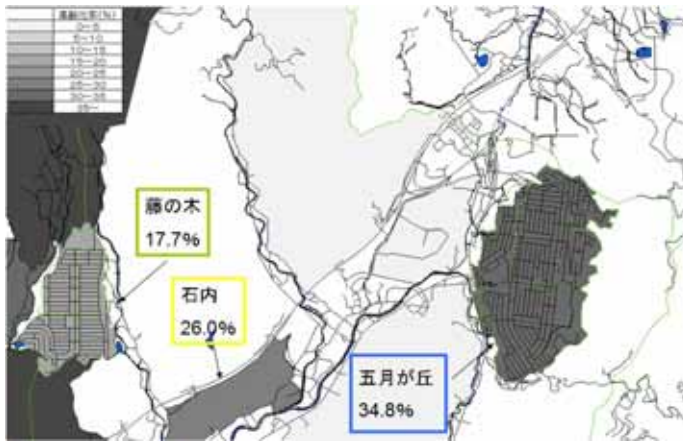


図5 佐伯区の住宅地の高齢化率（南部）

年9月時点の65歳以上の高齢化率を地図上に示したものが図4と図5である。これらの高齢化率から、既成市街地に比べ特に高度成長期以降に作られた新しい住宅地の高齢化率が特に高いことが明らかになったが、今後これらの住宅地が特定の年齢層が多いまま高齢化の進展した場合にどの程度の高齢化率になるかを検討したものが、図6である。人口の予測には不確実な要素も多いので、今回は過去5年間の人口増減のトレンドから5年後と10年後の予測を行った。

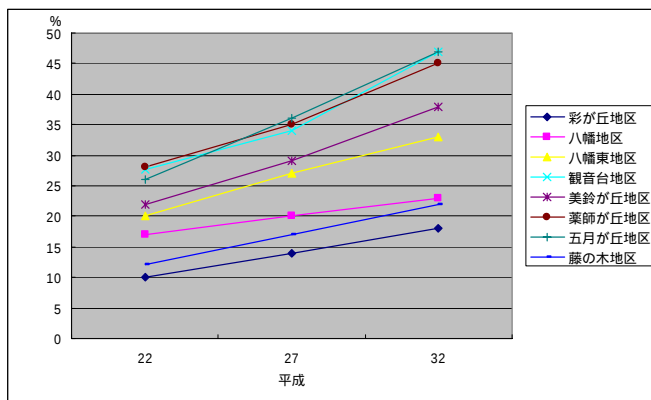


図6 住宅地別高齢化率の予想

これらの住宅地の中には、町丁目単位での平均年齢が現在50歳を超えているところもある。また不動産業者へのヒヤリング調査によると、20歳代～40歳代の住宅購入の人口減により、今回対象とした住宅地は不動産価格が下がっているものの、住宅地が斜面にあるなど魅力の点で都心のマンションに対して苦戦しており、また、これらの住宅地に現在住んでいる住民にとっても、不動産価格の下落により、より交通の便の良いところへの移転が難しくなっている。

したがって、これらの住宅地の維持だけでなく、これらの住宅地の住民の買い物などの日常生活につながるの深い既成市街地の維持のためにも、図6で取り上げた住宅地と、主要な商業施設や病院等を結ぶ公共交通の整備が必要であると考え。

3. 高齢化率の高い地域へのバスルートの検討

図7は、これまでの検討を踏まえ、既存のバスルートに加えて、実際の道路事情を考慮して、これから急速に高齢化が予想される住宅地とそこに隣接する既成市街地との間を結ぶバスルート案の検討を行ったものである。

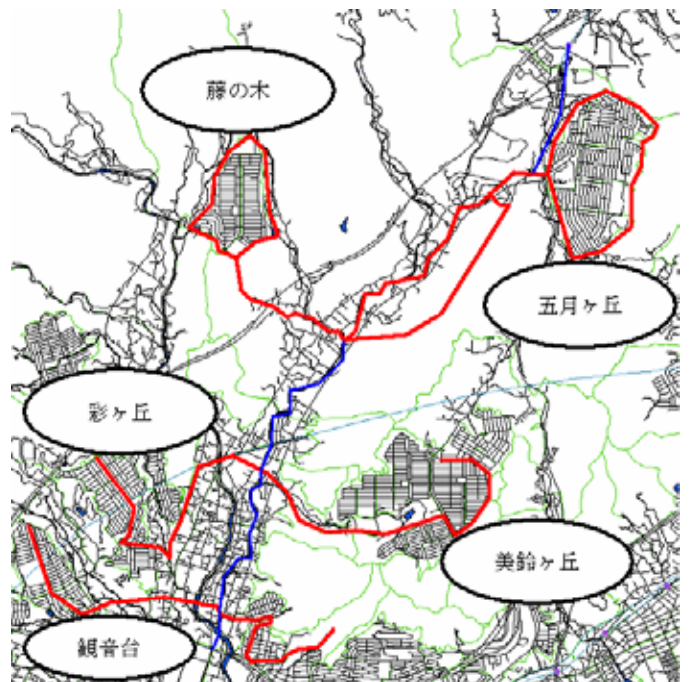


図7 検討したバスルート案

4. 今後の課題

既に、過去の調査研究¹⁾で、住宅地の住民の意向として、現在のマイカーの代替となるバスサービスを導入する意向は高い。今回の検討は、高齢化が過大に評価されている可能性があるが、一部の住宅地で高齢化が急速に進展することは明らかであり、この対策として現在地元の関係団体と、住民ニーズを満たし実現可能な何らかの交通サービスの導入に当たって協議を始めているところである。

【参考文献】

1) 大東(2010)斜面地開発住宅地の高齢化にむけた交通利便性の改善に関する事例研究、第42回土木計画学研究発表会・講演集